

選択「2」

選択肢をつくりだす

？じっと考えてみよう



ある小国の貧しい貴族の家に3人の娘（甲娘・乙娘・丙娘）がいた。3人とも10代のおしゃれ盛りで、着る服について好みが強かった。が、家は裕福ではなかったので娘たちにとってやるドレスは少なかった。

甲娘はいつもこう漏らす——「なぜ私には3着しかドレスがないの。しかも格好の悪いものばかり。いまどきこんな古い型なんて恥ずかしい。ああ、今晚の舞踏会になにを着ていけっというの。このなかから選べと言われても選べないわ」。

それに対し、乙娘はというと、裁縫道具や布切れを部屋に広げ、手持ちのドレスに自分で手を加えている。——「この部分はこう作り変えてしまえばいいかな。あ、そっだ、この素材を縫い付ければ今風になるわね。あと、ドレスを上下に分けてしまえば、いろいろと組み合わせもできるし、手元に3着しなくても、5着、10着にも見た目を増やせるわ」。

一方、丙娘は、町でドレス作りを商売にしている職人やデザイナーを何人も広間に集めていた。丙娘は彼らを前に熱く語り始めた——「ドレス作りを我が町の産業として有名にしていきたいでしょう。来月行われる舞踏会には、国じゅうから貴族たちが集まります。王女も来るでしょう。そこであなたたちの腕前を見せつけるのです。最高のドレスを何着も作ってください。私がモデルになって宣伝しましょう」。

□ 3人の娘のうち、選択できるドレスの種類がもつとも限られて  
いるのはだれでしょう？ 逆に、もつとも豊富なのはだれで  
しょう？

□ 3人の娘の間でそういった選択肢の多さに差が出たのはなぜで  
しょう？ 各人の心の姿勢に着目して考えてみましょう。



わたしたちは日々、なにかを選択しながら生きています。A、B、  
C、D……、目の前にはいくつかの選択肢があつて、どれかを選  
んでいく。たとえば、レストランに行けば、メニューにはたくさ  
んの料理がのつていて、そこから食べたいものを選びます。家電  
店に行けば、テレビが何種類も並んでいて、価格や機能、予算に  
応じて選んで買います。高校や大学もそうです。自分の学力や家  
庭の経済力に合わせて、学校を選んでいきます。選べるものがた  
くさんあつて迷うときもあれば、選べるものが少ない、あるいは  
まったくなくて困るときもあります。さて、そんな選択肢をめぐ  
ることについて、3人の娘の例で考えていきましょう。



自分が舞踏会用に着ていくドレスで、どれだけのものから選ぶこ  
とができるか。まず、甲娘が選べるのは3種類だけです。彼女は  
与えられたドレスからしか選ぶほうとしないからです。一方、  
乙娘はどうでしょう。彼女は与えられたドレスに自分でアレンジ  
を加え、着こなせるパターンを5種類や10種類に増やしています。  
さらに丙娘となると、ドレス職人を集めて、さまざまに新しいド  
レスを作らせて、自分で着てしまおうというアイデアと行動を起  
こしています。おそらく丙娘が着られるドレスは種類も多いし、  
質も高いものになるでしょう。なにせ、腕前のいい職人が意気込  
んでドレスを作るのですから。



このように選択肢がもっとも限られるのは甲娘で、逆にもっとも豊富なのは丙娘です。では、なぜこのような差が生まれるのでしょうか？——それは、ただ目の前にある選択肢を選び好みしているだけなのか、あるいは、選択肢をあなたに作りだそうとするのか、という心の姿勢の差にあります。

甲娘は、与えられた選択肢にいろいろと文句はつけるだけで、選択肢を増やそうという努力をしていません。「これもダメ」、「あれもバツ！」と言って、最後には「ああ、自分は恵まれていない」とぐちをこぼす姿勢です。これでは自分の選べるものがじり貧になってしまいます。それに対し、乙娘は自分の力で選択肢を増やそうとしています。手持ちのものが自分の好みや都合に合わないのなら、合うように変えていく努力をしているのです。丙娘は選択肢を増やすために、もっと積極的に取り組んでいます。自分の力だけでなく、他人の力も巻き込んでやろうという計画です。しかも協力してくれるみんながハッピーになれるような働きかけをしています。そうやって丙娘は、たくさんの、しかも新しいドレスのなかから選べる状況をつくりだしました。

わたしたちは小さいころからいろいろと選択肢を与えられます。「こっちの青と、あっちの赤とどっちがいい？ 好きなほうの服を選びなさい」「晩ごはんはカレーにする？ ハンバーグにする？ 食べたいほうはどっち？」「この予算内で自分が買いたい自転車を決めなさい」「あなたの実力で合格できそうなのはA校かB校です。どちらの受験を決意しますか？」など。親や先生があらかじめ示してくれた選択肢を子どもは受け取り、そのなかから自分に合ったもの、自分がよいと思うものを選ぶ。そうした過程で、子どもはものを比較したり、判断したりする力をつけていきます。これは一つの大事な成長です。

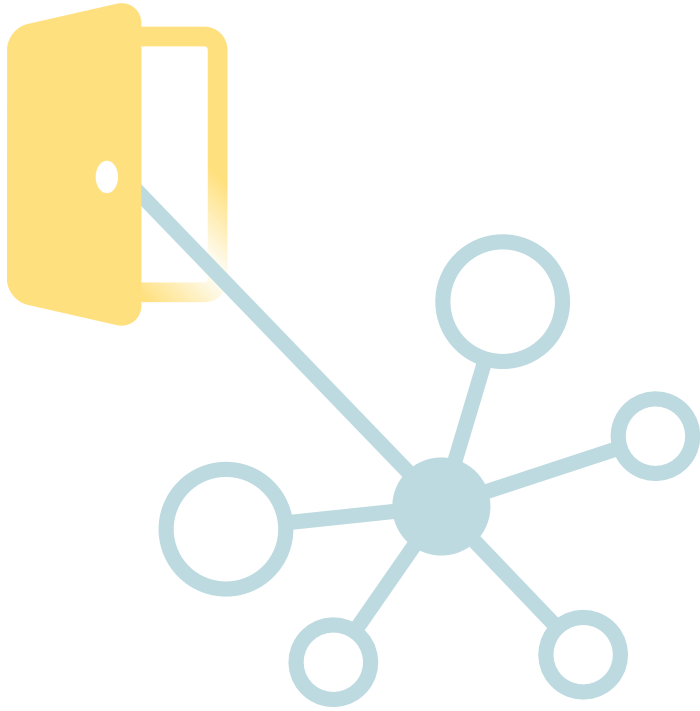
けれど、その成長は一つの段階にすぎません。なぜなら、それは与えられたものから選んでいるだけだからです。次の成長段階は、選択肢をみずからつくりだすということにあります。

いま、あなたの目の前には「A・B・C」の3つの選択肢がある  
としましょう。そして、その3つにどれも満足できないとします。  
さて、あなたはどうしますか？

文句を言って全部を拒否するか——でも、そうやって投げやり  
になって、状況がよくなるためしはありません。

または、しょうがないなと言ってどれかを選んでがまんするか  
——でも、妥協ばかりを積み上げてこしらえた人生はどこかさ  
びしい。

あるいは、新しく「D」という選択肢、あるいは「E」という選  
択肢を創造しようとするか——そう、そういう強い心の姿勢を  
とれる人が、人生をどんどんひらいていく人なんでしょう。



14歳から  
大人まで

生きることの根っこを考える

# ふだんの<sup>🍎</sup>哲学

Philosophy for Everyday Living

『ふだんの哲学』は、中学生から大人まで読んでいただける思索のための小話集です。

学問的な哲学ではなく、ふだんのできごとのなかからふかく考える種を見つけ、

ふだんに（不断に＝絶え間なく）心を健やかにしていく内容をめざしています。

ほかにもシリーズ記事がプロジェクトサイトにありますので、是非のぞいてみてください。

\*本記事は営利を目的としない教育用途であれば、個人や学校・各種グループにおいてご自由にお使いください。

## 「ふだんの哲学」ウェブサイト

<http://careerscape.lekumo.biz/tetsugaku/>

村山 昇 (info@careerportrait.jp)

サカイシヤスシ (info@lantadesign.com)